

2. 看護職員の負担の軽減及び処遇の改善に関する取り組み事項

部門	項目	現状	必要な対処
薬剤部	一般注射薬の調製 抗がん剤の調製	定期処方注射薬の調製を行っている。また臨時の高力ロリー輸液の調製依頼に対応している。抗がん剤の調整件数が年々増加している。	継続的に調製に携わり、薬剤の適正使用を順守することにより看護師の負担軽減に繋げる。
	入院時の持参薬報告	電子カルテ上入院時に持参された薬剤の使用状況を入力している。併せて持参された薬剤において、特にハイリスク薬については情報提供を実施している。	引き続き薬剤師による持参薬確認を充実させることにより、適切な薬剤継続に繋げ、看護師による確認作業を簡略にするとともに、ハイリスク薬についても情報提供することにより看護師の負担軽減に繋げる
	入院患者への服薬指導	服薬指導をはじめとした病棟薬剤業務を実施し、薬剤師による適切な患者情報や薬物療法の助言および看護師からの相談応需にも対応する。	服薬指導をはじめとした病棟薬剤業務を継続し、適切な薬物療法がおこなえるよう看護師へ情報提供を行うことにより、看護師の負担軽減につながる。
中央検査部	生理機能検査ポータブル検査の充実	患者の酸素量が10Lでも検査のために検査室まで連れてきてくれている。	酸素量が7L以上の場合はポータブルで行える検査は医師に相談し極力ポータブルで行う。検査室まで誘導する負担が軽減できる。
	救急救命処置の場における業務拡大	現在、救急救命処置の場には臨床検査技師の配置を行っていない。タスクシフト、シェアの推進により検査技師を配置する。	救急救命処置の場において、臨床検査技師等に関する法律により診療の補助として実施することができるとされている採血等に加え、患者の移送や血圧測定等の医行為に含まれない補助行為についても実施する。また、採血管などの検査備品の管理をおこなう。
中央放射線部	造影剤投与後の抜針及び止血	造影剤投与後の抜針や止血は看護師が担当しているが、検査の重複などの影響で直に対応できないことがあり、検査の進行が遅れることがある。	事前に院内研修を受けた診療放射線技師が、検査が滞ることのないように抜針や止血の対応を行う。
	画像診断検査・放射線治療に用いるリネン回収補充	各検査室、放射線治療室が離れて存在し、リネン回収が煩雑	各検査室、放射線治療室での必要数を確認し、リネンの回収補充を行う
臨床工学部	血液浄化関連：透析患者対応	22時迄の夜間維持透析患者に対する看護師配置は必須	患者数に応じた看護師数配置と技士増にて対応する
	人工呼吸器の回路交換時のサポート	人工呼吸器等の使用患者さんに対し回路交換やその他の相談事に対して現場へのサポート要請がある	人工呼吸器関連のサポート要請に適正な対応をする
	中央手術部：医療機器管理	中央手術部で管轄する医療機器の保守点検、不具合対処および管理（アイセンターも含む）	定期点検計画および実施、破損修理や代替え機の手配、装置の更新や廃棄手続き、使用時の不具合対応。

印	NICU関連：人工呼吸器対応	NICU内の人工呼吸器および保育器等医療機器保守管理全般を実施。	NICU内巡回、終業点検、セットアップ・不具合対応、在宅への指導など医療機器全般をサポート。
	中央機材室管理下の機器貸し出し手続きをオンライン化する	中央機材室の機器管理システム導入により在庫状況がリアルタイムに情報発信可能となり、在庫や貸出状況、貸出予約、不具合状況の報告が全てオンラインで処理できるようになる。	貸出処理もセルフで実施、在庫や不具合、研修依頼等も全てオンライン化する事で、電話での問い合わせ時間を減らす。
総務部	看護補助者の安定的な人員確保	2024年7月から学生を対象としたナースエイドの採用を実施し、2025年1月より夜間100対1急性期看護補助体制加算算定の算定を開始しているが、年間を通じて安定的な人員確保が必要である。	看護業務補助のための看護助手およびナースエイドについて安定的な人員確保を図り、夜間100対1急性期看護補助体制加算算定を維持する。